

管路防災研究所

NEURON Pipeline Resilience Laboratory

NEWS LETTER

Vol. 50

2026.7

AI時代の開発能力

管路防災研究所 シニアフェロー 小池 武

1. 創造起点は気付き

現状の製品群に囲まれた中で新規製品を創造する契機となるのは、既存製品群に対して何か不具合・不都合を感じた瞬間である。その気付きを見過ごせば、何の創造も生まれないが、その気付きから新製品創造に至る道筋は、研究開発・技術開発のプロセスそのものである。

この気付きから解決すべき核心部に到達し、それを解決することで到達目標が具体的にイメージできるようになる。この一連の過程の中で開発者に求められるのは、最初の気付き(動機)を解決したいという強い信念、すなわち自分の考え方が既存のものより一層の合理性があることを論理的に確信しつつ、最後まで忍耐強く目標に迫る気力であろう。



〒619-0237

京都府相楽郡精華町光台2-2-5

日本ニューロン株式会社

けいはんなサウスラボ

『管路防災研究所』

お問い合わせ先

info@neuron.ne.jp



2. AI時代の開発能力

AIは人間の創造的能力を支援するための道具として開発されたもの。現在のAIは既存製品群の存在合理性を的確に網羅的に整理して提示できる有能な研究助手ということになる。もし、開発者がAIの回答に対して何の不具合・不都合も感じなければ、新製品創造の契機は生まれない。最も大事なことは、開発者がAIの回答の中に自分の感覚で何かおかしいと感じる気付きを持てるかどうかである。

開発者がこの気付き能力を持つために何が必要なのか？それは、自分自身が考える方向とAI回答（既成事実）との間の微妙な差異を見抜く能力である。そのためには、開発者は「論理的に考えた結果の方がAI回答よりも優れている」と自分の論理的能力に確信が持てなければならない。

しかしながら、最も危惧しなければならない点は、「昨今のAI技術の進展が人々の論理的能力を低減させる方向に向かっている。」点である。

電卓が普及すると暗算能力が急に低下した経験や、パソコンに習熟して漢字の手書き能力が減退した経験があるはず。この程度の影響だけなら何ら心配はいらないが、昨今の事態はもっと深刻である。AIにキーワードをいくつか与えると、一瞬でChatGPTが勝手に回答文を作成してくれる。この時、人間の頭脳は、このキーワードに関する調査も文章による纏めもせず、ただ結果を見守るだけである。したがって、頭脳が持つ論理構成能力は停止したままである。

今後AI依存状況が継続すると、人間の頭脳は論理構成能力を発揮するあるいはそれを訓練する機会を失い、結果的にものごとを論理的に考える力を喪失する懸念がある。人間が自分の頭脳を使って論理的に思考し、AIとは異なる視点から意見を表明できるようにならないと、AI時代の新規開発能力が減退する危険がある。これからの時代は、自分の頭と指を使って自ら文章を書くことで、論理的思考能力を確保する努力が必要となろう。

